

腸内細菌使い生ゴミ分解

排水不要で効率良く

食品メーカー、旅館などに販路

朋英

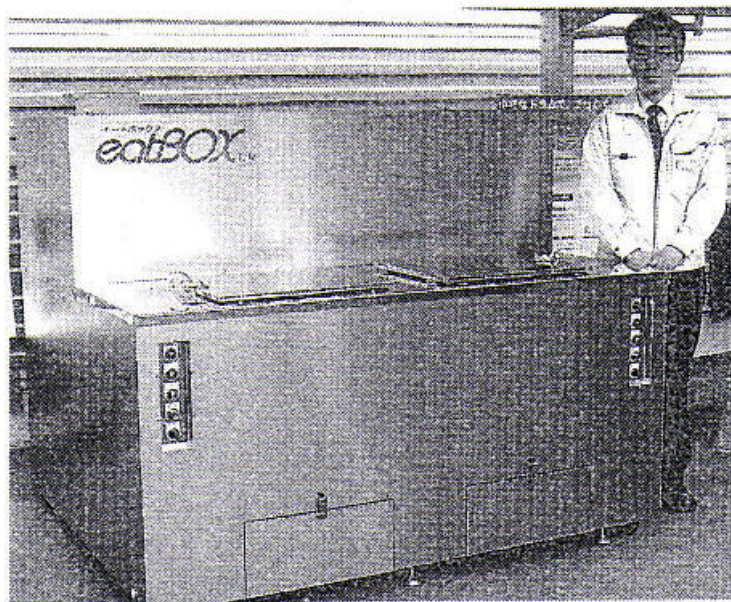


竹淵社長

総合複写業の朋英(吾妻郡吾妻町岩井965-1、竹淵博行社長) 0279-68-3223

は動物の腸内細菌を利用した食品残渣物の分解基材「フォレストバイオチップ」を開発、このほど同基材を使った業務用生ゴミ処理機の販売を始めた。従来の生ゴミ処理機と比べ、同処理機は排

水設備を必要とせず24時間以内の分解が可能。製造販売元として別会社「クリーンフォレスト」(住所、社長同)を設立、食品リサイクル法の対象となる食品メーカー、外食産業事業者らに販路を開拓する。



販売を始めた生ゴミ処理機「イトボックス」

独自開発した分解基材「フォレストバイオチップ」は動物の糞尿から排出される腸内微生物と腐葉土を培養、この培養液をおがくずと混合し発酵させたもの。同分解基材を生ゴミ(有機物)と攪拌、発酵させたところ24時間以内に生ゴミの98%が消化されることがわかった。この技術を利用、開発したのが生ゴミ処理機「イトボックス」。同処理機は内部で発生する水蒸気を消臭効果に

用いる温風熱に当て再利用するため、既存生ゴミ処理機で付帯されている排水設備を必要としないのが特徴。ツインタブ(2槽)方式で投入した食品残渣物を効率的に消化する仕組みだ。

1日当たりの処理能力が最大50*の「E-40」と同80*の「E-70」の2種類あり、価格はそれぞれ450万円と550万円。購入者は本体価格とは別にメンテナンス料を支払い、クリーンフォ

レスト社が分解基材の補充や機械整備などを行う。竹淵博行社長の話 県内の温泉旅館や食品メーカーへの販売促進を計画している。初年度の販売目標は50台。今後は販売代理店になってくれる事業者を探していきたい。

食品リサイクル法

01年5月に施行。食品

廃棄物の年間排出量が100トを超える事業者が対象で、06年度までに20%の削減を求めている。未達成の事業者には「措置・勧告」「企業名公表」「50万円以下の罰金」などの罰則が適用される。